

地域力概論



国際教養大学
地域環境研究センター

熊谷嘉隆

平成25年7月9日

第5期 Akita ふるさと活力人養成セミナー
開講式

自己紹介

- 北海道
- 山小屋、登山、中退、ネパール・インド
- ホンダ
- 学士・修士(自然公園管理学) モンタナ大学
- 博士(森林社会科学) オレゴン州立大学
- 研究員 ワシントン州立大学

- 趣味: 読書、写真、旅行
- 座右の銘: 「1日生きるということは1歩前進するということでありたい。」(湯川秀樹)
- 近頃読んで感銘を受けた本
 - 「昨日までの世界」by ジャレッド・ダイヤモンド
 - Resilience(復活力)by アンドリュー・ゾッリ

自己紹介（続き）

- 第1回アジア国立公園会議運営委員会座長（環境省）
- 内閣府地域再生評価・検討委員会委員（内閣府）
- 「エコツーリズムアドバイザー」(環境省)
- 国立公園における協働型運営体制のあり方検討委員会委員(環境省)
- 秋田県水と緑の森づくり基金運営委員会 座長
- 秋田県森林審議会委員
- 秋田県森林審議会森林保全部会 座長
- 秋田県生物多様性保全構想改定委員会 副座長
- 第29回国民文化祭由利本荘市独自事業企画委員会 座長
- 秋田モンゴル友好協会副理事長(名ばかり！)
- International Union for Conservation of Nature (IUCN),
World Commission on Protected Area(WCPA)副委員長（東アジア地域担当)兼日本委員会委員長
- 研究テーマ: 自然保護地域管理運営、アジア地域に於ける生物多様性³
保全戦略、自然生態系保全と自然災害リスクの軽減

地域力考察のきっかけ

- 博士論文 & 博士研究員時代のプロジェクト
- 「大規模森林火災における被害原因認知および社会的影響評価」



大規模森林火災

年	回数	焼失面積 (km2)
2008	78,979	21,417
2007	85,705	37,749
2006	96,385	39,957
2005	66,753	35,164
2004	65,461	32,770
2003	63,629	16,028
2002	73,457	29,075
2001	84,079	14,450
2000	92,250	29,920
9 年平均	77,827	28,504

秋田県: 11,612km²
四国: 18,000km²
九州: 42,000km²

National
Interagency Fire
Center 2009

過去の消火活動による森林残渣の増加

□ 枯れ枝、枯れ草、伐採残渣等の蓄積



Photo Courtesy: US Forest Service

林地/居城区

- 土地価格
- 静寂・安心・安全
- 通信網の発達
- 高速道路網の発達



Photo Courtesy: US Forest Service

林地/居城区における森林火災



8

Photo Courtesy: US Forest Servi

消失家屋



ビュート複合火災

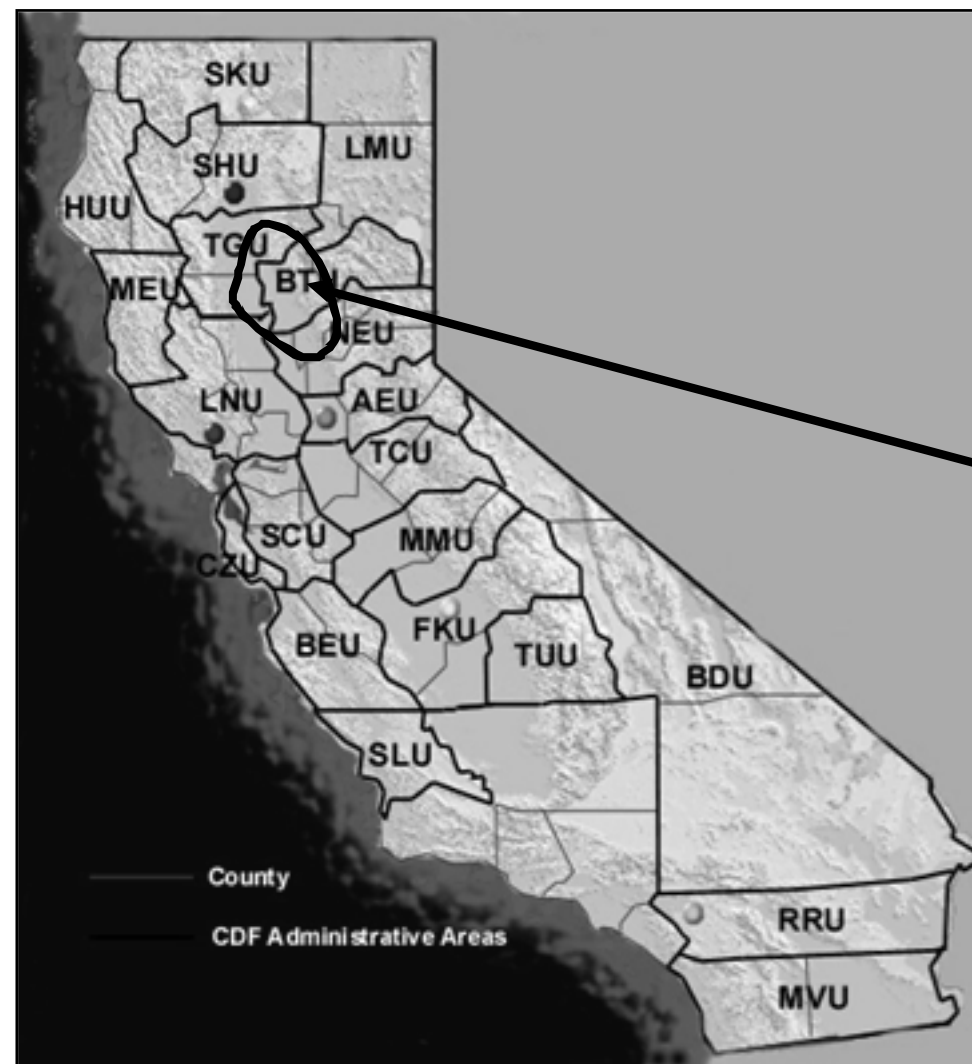
□ 1999年8月23日発生、9月5日鎮火

- 原因: 雷
- 消失家屋: 24戸
- 大規模火災認定
- 避難者数: のべ35人
- 死者: 0
- 負傷者: 28人

□ 二つの集落が被災

- 被害程度はほぼ同じ

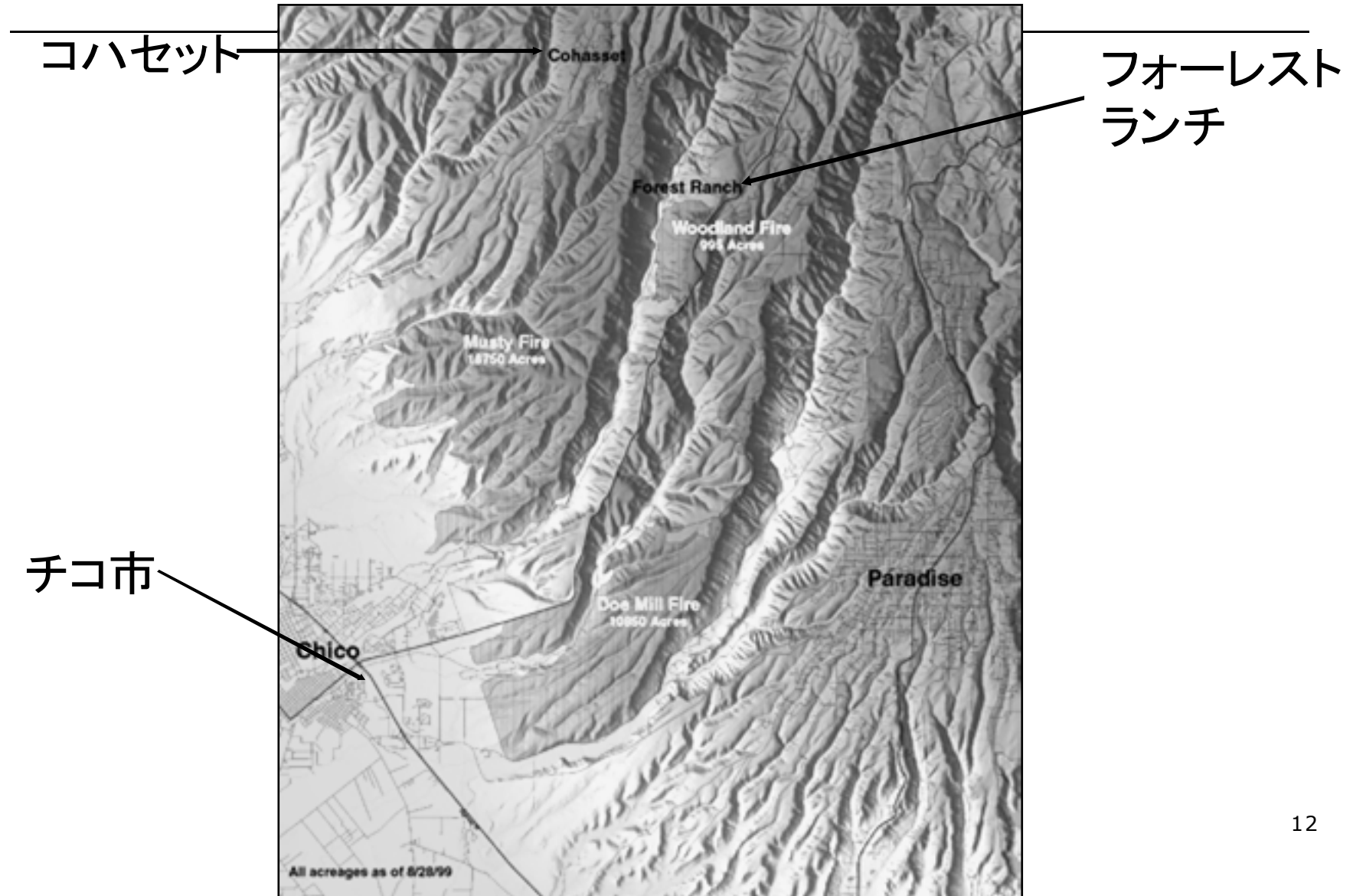
研究フィールド: シエラネバダ山脈西腹



Butte Complex
Wildfires:
Field interview &
Follow up survey
area

ビュート複合火災

(Butte Complex Fires)







Courtesy CDF



現地調査1：インタビューとアンケート

(1999年8月26日ー9月15日)

- 両地域の住民、55人に対してインタビュー
 - 高齢者、身体障害者へのケアー
 - 情報伝達の在り方
 - 消防隊への信頼度
 - 地域内の団結
 - 被害原因認知
 - 不便なこと
 - 不満

現地調査2：インタビューとアンケート

(2000年8月26日－9月10日)

- 復興度合
- 消防団との関係
- 隣人関係の変化
- その後の危機管理
- 不便なこと
- 不満
- 訴訟の有無

調査結果：二つの集落における「差異」

- 雰囲気
- 独居老人および奥地住民への周知・援助
- 隣人関係
- 原因認知
- 復興度合
- 消防隊との関係
- 危機管理
- 訴訟

疑問

Q 1: 類似被害程度にもかかわらず火災中および復興後の対応に大きな差異が認められたのは何故か？

Q 2: 「差異」の主要説明変数は？

Q3: 「差異」は偶発的なのか？それとも火災発生前・中・後の地域内の何らかの要素と関係があるのか？

調査で浮かび上がった事実

- 地域内における自立的活動グループの存在
- 地域内外における社会的ネットワークの強弱

- フォーレストランチ在住の
地域住民の活動

- 危機意識
- 行政・消防団との信頼関係
- 外部組織とのつながり
- コミュニティーホームページ
- プライド
- 各種ボランティア活動の展開



暫定的結論

- 火災中及び火災後の差異は火災前のコミュニティ内のいくつかの要素と相関関係がある。
 - 「差異は」偶発的ではない。
- 差異の主要説明要因は火災前の地域内外ネットワークの強弱である。
- 地域内ネットワークの構築は一部地域住民の内発的意志によって進められ、その過程で活動が拡大・多様化

転機

- 2004年3月、足かけ14年間のアメリカ生活にピリオドを打ち、帰国。秋田へ。
- 旧阿仁町研究をきっかけに日本の村落社会研究に興味

そこで新たな疑問が、、

Q 1: 日本全国には多くの地域集落があるが、類似条件下にも関わらず外界変化に弾力的に対応している地域とそうでない地域があるのは何故か？

Q 2: より厳しい・乏しい条件下で弾力的に地域を運営する集落がある一方、比較的恵まれている条件下で衰退している地域が存在するのは何故か？

「地域力」研究

- 自然・景觀資本 (Natural Capital)
- 社会基盤資本 (Physical Capital)
- 文化資本 (Cultural Capital)
- 産業資本 (Industrial Capital)
- 人的資本 (Human Capital)
- 社会的關係資本 (Social Capital)

地域力 (Community Capacity)

自然・景観資本

気候、山岳、河川、湖沼、
森林、鉱山、木材、田園風
景

社会基盤資本

交通網、通信網、上下水道、
教育施設、福祉施設、

生活・文化資本

史跡、伝統芸能、祭り・行事、
食材、口々地、

地域力

産業資本

基幹産業、産業形態

人材資本

多様な人材

社会的関係資本

団結力、情報力、雰囲気、協
力関係、

推論

- 地域力の創出・強化は「人」
- 地域内各種資本を活かすのはその価値を多角的に認識している人材である。
- 地域内資本の豊富さとは各資本の総和ではなく資本間の連動性によって形成される
- 一部のやる気ある人材が各種地域内資本を有機的に連動させたときに地域内で「新たな動き」が起こる。

地域づくりと人

- 地域力を強化するためには各種資源を多角的に認識し、それらを連動させ、その潜在力を引きださせる人、地域内の多様な意見、活動者を取りまとめる人、つまり地域コーディネーターが必要である。

こんな人が地域を変える

1. 客観的な視点
2. 情報受容・発信能力(通訳能力)
3. 調整力
4. 情熱
5. 人脈力
6. 長期的展望
7. 自ら楽しむ

現状

- 地域資源に対する再評価は始まっている。
 - 点在的活動も進行している。
 - 人材育成の重要性も徐々に認識されつつある。
 - ネットワークの重要性もある程度認識されつつある。
-
- ただ、全てにおいてさらなる強化が必要です。

結びに

- 県内集落の弾力的運営（地域活性化）は皆さんにかかっています。
- 強い決意と情熱を持って、これから2年間共々にしっかり勉強していきましょう。

これからどうかよろしくお願いします。



セミナーの骨格

